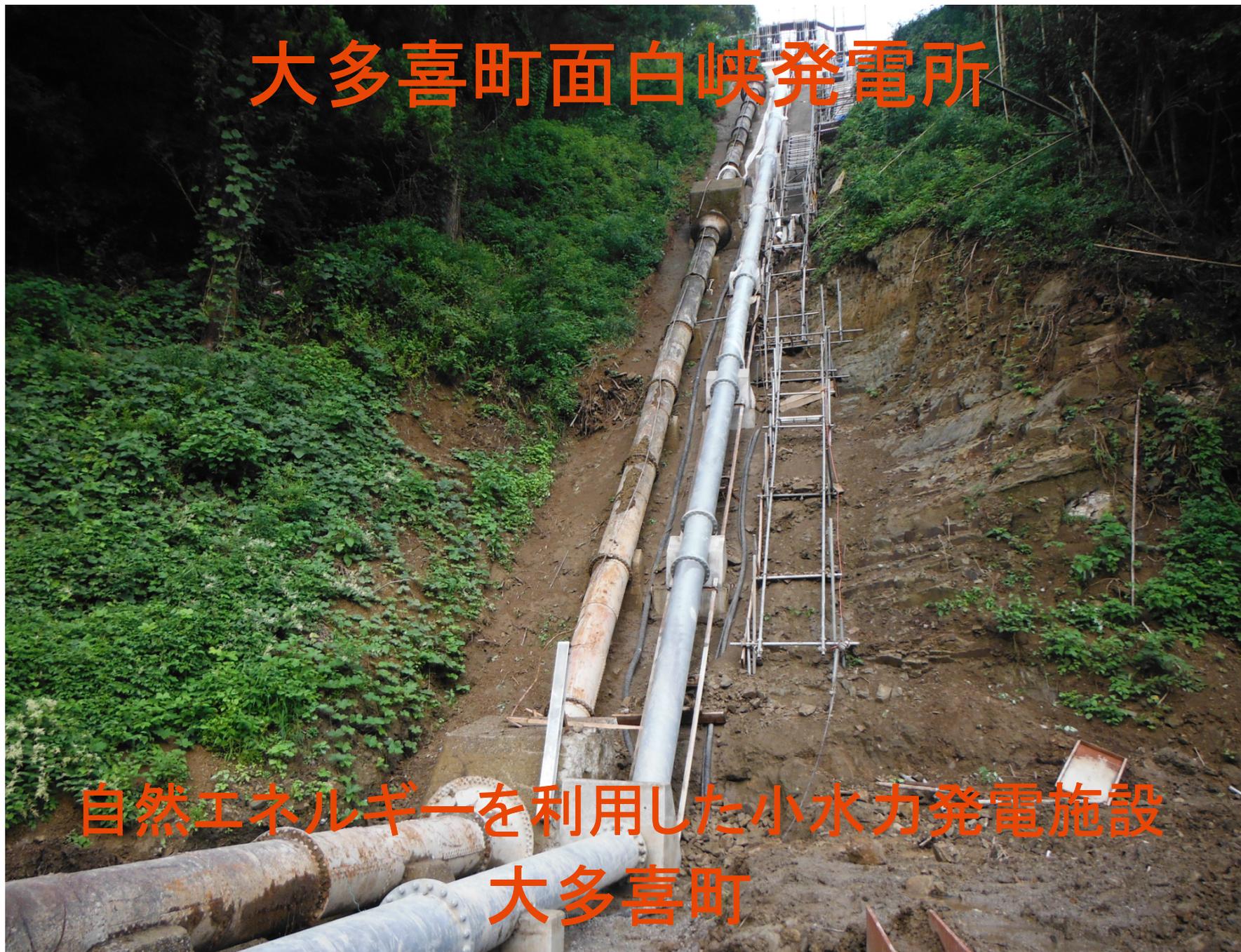


# 大多喜町面白峡発電所

自然エネルギーを利用した小水力発電施設  
大多喜町



# 1. 旧東京電力発電所の跡地を利用

昭和30年ごろ養老川を中心に3つの水力発電所がありました。その一つが老川発電所です。書物によると、起工は大正12年(15年に竣工)で昭和35年まで稼働し廃止となっています。その後、施設の一部は、大多喜町が町営水道の浄水場として活用してきました。

## 【自然エネルギーを活用した小水力発電施設を建設計画】

水脈は清澄山系の北東部に位置する麻綿原高原に源を発する養老川の豊富な水源を利用します。

- ・地球温暖化対策、資源の有効活用、災害時非常用電源として利用
- ・施設を観光資源として地域の活性化につなげる目的
- ・発電所の場所 大多喜町面白地先(養老溪谷)

## 2. 発電施設の概要

- 河川名 二級河川 養老川
- 実施場所 大多喜町面白460番地
- 取水口 大多喜町栗又地先(栗又の滝上流)
- 発電方式 水路式流込方式
- 導水路 総延長 2,153.2m
- 落差 有効落差 43.5m
- 水圧管路 鋼管 500mm 延長 96.8m
- 出力 最大出力 130kw/時  
常時出力 35kw/時  
年間発電量 639,840kw
- 電力売電 東京電力と売電契約

